

ふるさと環境学習の教材づくり

令和2年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：ふるさと環境学習に資するESDプログラムの構築と試行

研究代表者：総合政策学部 准教授 辻 盛生

課題提案者：たきざわ環境パートナー会議 代表 豊島正幸

研究メンバー：渋谷晃太郎・島田直明・鈴木正貴(総合政策学部)、齊藤政宏(たきざわ環境パートナー会議)

技術キーワード：環境学習、市民参加、希少野生生物保全

▼研究の概要（背景・目標）

木賊川遊水池予定地は、貴重な野生動植物が現在に残されている。持続可能な開発に向け、残された自然を地域の方々に知ってもらうことが欠かせない。ここでは、今までの先行研究で得られた知見を活かすため、現地で体験的に学習できる素材の構築を試みた。



▼研究の内容（方法・経過）

1. 希少野生同直物保全のためのピオトープ拡充(写真1)

遊水池造成で生じる貴重動植物の移植場所として、手作りでピオトープを拡充。

2. 遊水池造成状況のわかる立体模型の作製(写真2)

図面ではわかりづらい施工後の現地の状況を3D模型で表現し、遊水池事業で生じる変化をわかりやすく示す。

3. 研究成果に基づく屋外用説明教材の作成(写真3)

今までの地域協働研究による知見を、自然観察会などの現地説明で利用できる資料型の教材として還元する。



写真1 ピオトープ拡充範囲（赤枠）

▼研究の成果（結論・考察）

1. ピオトープを拡充すると共に、導水路の改修を行い、安定した水の確保を可能にした。事業で埋め立てられる水路から希少植物を移植すると共に、埋土種子から発芽した希少植物を含む底泥の移植を行った。ピオトープやその周辺で、極めて希少性の高い野生生物が2種確認された。

2. 高さ方向に1.5倍強調することで、図面ではわかりにくかった遊水池造成によって作られる構造物が立体的に把握可能になった。

3. 遊水池予定地周辺の過去から現在に至る植生の変遷、気象野生生物の現地での分布状況、サクラソウの生態や生育条件などの先行研究の成果を現地で実施する自然観察会や保全活動の際に使用できる教材を作成した。



写真2 施工前後の地形3D模型

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

・ピオトープが充実し、保全に向けた取り組みの拠点としての機能が期待できる。新たに見つかった希少野生生物の調査を進める必要がある。

・屋外説明用の教材は、現地での活動を通して必要な情報を拡充する。

本研究の実施に際し、本城正憲氏、渡辺修二氏、新井隆介氏にご指導・ご助言いただいた。



写真3 屋外用説明教材を用いた説明